



旧本館の歴史と宇宙遊学館の誕生

○旧緯度観測所本館と木村 榮 博士

旧緯度観測所本館は、大正10年に建設され、昭和41年まで緯度観測所本館として利用されました。造りは、ドイツ風木造建築。特に特徴的な望楼を持つこの建物は地元の住民からも郷土を代表する建築物の1つとして長年親しまれてきました。

緯度観測所の初代所長は木村榮博士。当時、各地の観測結果をまとめていたドイツの中央局から水沢観測のデータに誤差が多いという知らせが入ります。観測所では誤差の原因を探る日々が続きましたが、明治35年、木村博士は緯度変化に関するZ項という新しい発見をして、水沢の観測に誤差が生じているのが悪いのではなく、数値を出す方式に問題があることを明らかにします。このできごとは、水沢の観測精度の高さが最も良いことを示すこととなり、世界中から注目を集めました。

○旧本館取り壊しの決定と保存活動

昭和42年に現在の本館が建設され、緯度観測所は旧本館として移築され、会議や資料の展示を行う場として利用されていました。しかし、建物の老朽化が進み、使用することが危険になってきたため平成17年10月、取り壊されることが決定。市民の間で、なんとか緯度観測所を残そうという機運が高まり、保存活動が始まりました。この保存活動は、新聞などでも大きく取り上げられ、活動の輪は全国に広がりました。その年の12月、保存活動を進めていた市民団体から当時の水沢市議会に請願が提出され採択。この決定を受け、当時の水沢市は国立天文台に建物の取り壊しの延期を申し入れ、認められました。

平成18年2月、市町村合併により奥州市が誕生。市は建物の保存・活用を目指し、市民を加えた整備活用検討委員会を立ち上げ、国立天文台に建物を譲り渡してもらうよう申し入れました。19年4月、国立天文台は奥州市へ正式譲渡を決定。市は建物を保存・改修し、20年4月21日、奥州宇宙遊学館として開館することになりました。

○緯度観測所と宮沢賢治の関わり

賢治が緯度観測所を訪れた時の様子が「風の又三郎」の初期形「風野又三郎（大正11年）」に書かれています。作品の中で又三郎が『・・・その前の日はあの水沢の臨時緯度観測所も通った。あそこは僕たちの日本では東京の次に通りたいがる所なんだよ・・・』と、村の子どもたちに語りかけています。またテニスラケットを持った木村博士も登場『・・・木村博士は痩せて眼のキョロキョロした人だけれども僕はまあ好きだねえ・・・』と描かれています。その後、大正13年にも訪れていることが、日付入りの短詩「晴天恣意（3月25日）」に記されています。これらのことから緯度観測所訪問が、のちの名作「銀河鉄道の夜」などに影響を与えたと考えられており、賢治に関心を持つ人たちからも注目を集めています。

利用案内をしますね。



【観覧時間】

- 午前9時～午後5時
部屋の使用時間は、
午前9時～午後9時

【休館日】

- 毎週火曜日（火曜日が
祝日の場合は翌日）と年末年始

【入館料（観覧料金）】

- 大人 200円
- 高校生以下 100円
- ※15名以上の団体割り引きあり

【使用料】

部屋名	使用時間			
	9:00 ～13:00	13:00 ～17:00	17:00 ～21:00	全日
セミナー室	1,500円	1,500円	2,000円	4,000円
市民創作ルーム	800円	800円	1,200円	2,500円
シアター室	800円	800円	1,200円	2,500円

※冷暖房やプロジェクターなどの設備使用料は別途必要



奥州宇宙遊学館

〒029-0861 奥州市水沢区星ガ丘町2番12号
 ☎・FAX 0197-242020
 e-mail yugakukan@catv-mic.ne.jp

みなさんこんにちは。ボクは「奥州宇宙遊学館」イメージキャラクターの又三郎。よろしくね。今日は、4月21日にオープンする「奥州宇宙遊学館」を皆さんにご紹介します。遊学館って一体どんな施設なのか、これを見ればすぐ分かるよ。さあ、ボクと一緒に宇宙旅行に出発だ。



4月21日 オープン

奥州宇宙遊学館

宇宙観測100年の歴史が今ここに

行ってみよう

奥州宇宙遊学館は、水沢区の星ガ丘にある国立天文台水沢VERA観測所の敷地内にあるんだ。遊学館は、旧緯度観測所本館を改築した歴史ある建物なんだよ。2階建てでできていて、各部屋では、宇宙のことに触れたり体験できるように工夫されているよ。宇宙のことだけでなく、市民の皆さんに開かれた場であるために、会議や講演会のほか、さまざまな活動ができる部屋もあるよ。たくさん利用してほしいな。

